

平成31年度本校の全国学力・学習状況調査の結果について

山梨大学教育学部附属中学校 令和元年10月8日

はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日（木）に全国の小中学校で実施され、本校でも、3年生152名が参加しました。今年度の調査内容は、国語と数学はこれまで「基礎知識を問うA問題」と、「応用力を測るB問題」に分かれていましたが、今回から区分をなくして統合された問題となりました。また、英語は今回初めて実施され、「聞く・読む、書く・話す」の4つの技能が問われました。

この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

7月末に文部科学省から本校の結果が送付され、本校で結果の分析を行い、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載いたします。

なお、調査に参加しました3年生一人ひとりには、後日個人票を配付しますので、自分の結果を確認し、今後の学習に役立ててもらいたいと思います。

1 本校の状況(全国との比較)

- 国語、数学、英語の3教科とも平均正答率は、全国平均を大きく上回り、正答率の散らばり具合も全国と比較すると極めて小さい。

[参考] 国公私立を含めた全国平均正答率と公立中学校の県平均正答率

	国語	数学	英語
全国平均正答率	72.8	59.8	56.0
全県平均正答率	75	60	55

2 本校の主な成果と課題

国語

- 設問全体を通して、無回答があった設問は10問中3問と本校の無回答率が極めて低い。これは、基礎的・基本的な事項についての理解の高さと、既習事項を活用し問題を解決しようとする学習意欲の高さが現れているものだと考えられる。
- 設問全体を通して、本校の正答率は全国と比較して高いものとなっている。すべての設問の正答率が、全国平均を上回っている。すべての問題形式(選択式・短答式・記述式)に積極的に取り組む姿勢がうかがえる。
- △ 全国的に正答率が低くなっている設問については、本校生徒も他の設問と比較してみると正答率が低くなっている。例えば、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ「話すこと・聞くこと」に関する設問や、封筒の書き方を理解して書く「言語についての知識・理解・技能」に関する設問である。話し合いの柱に沿って話す能力、実生活や社会生活に即した場面で生きて働く知識を身につけさせる必要がある。
- △ 正答率が高いが、本校で最も無回答率が高かった(1.3%)のは、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」設問である。資料から必要な情報を取り出し、自分の考えを書くなど、粘り強く取り組む姿勢を身につけさせる必要がある。

数学

- 設問全体を通して無回答率が極めて低く、選択式・短答式のみならず、記述式の問題における平均正答率でも全国を大きく上回っていた。内容に対する理解力と、何とかして問題を解決しようという意欲が、ともに高いことがうかがえる。
- 数と式、図形、関数、資料の活用などの領域においても本校の平均正答率は高く、全国に比べ領域間の正答率の差が小さい。
- 全国的な傾向において課題とされた、反比例の表からxとyの関係を式で表す設問、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問に対して、本校では多くの生徒が正答している。

△ 全国的な傾向において課題とされた、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する設問、グラフ上の2点のy座標の差を事象に即して解釈する設問に対しては、全国ほどではないものの、本校でも他の設問に比べ正答率は低いといえる。

英語

○ 設問全体を通して正答率が高い。「聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの領域における設問に、大きな正答率の差はない。「話すこと」については、若干正答率が下がるものの、全国平均を大きく上回っており、4技能がバランス良く身につけていると言える。

△ 「理解の能力」や「言語や文化についての知識・理解」に関する設問の正答率に比べ、「表現の能力」に関する設問の正答率は、全国的な傾向と同じように、低くなっている。ある程度の知識は持っているものの、それらを活用して自分の考えをまとめ、英語で表現する力が十分に身につけていないことがわかる。

△ 「選択式」や「短答式」の設問の正答率が高いが、「記述式」の正答率は、全国の傾向と同じように、低くなっている。一方で、「話すこと」による「口述式」の設問の正答率は全国平均を上回って高い。

△ 無解答率は全体を通して低いものの、「書くこと」による「記述式」の設問において高くなる傾向にある。「話すこと」においては、無解答は非常に少なかった。

3 各教科における主な改善点

国語

- * 漢字の読み書き、言語事項の学習を継続する。また、生きて働く知識として身につくように、実生活や社会生活に応じた場面を具体的に設定し指導する。
- * 話し合い活動において、誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのか、今は何について話し合っているのかなど、話し合いのねらいや方向性を捉え、それに応じて聞いたり話したりする指導をしていく。
- * 自分の意見に説得力をもたせるために、主張・根拠を意識して話したり書いたりすることができるような指導をする。また、自分の考えを表現する際には、「主張と根拠の整合性はどうか」「もっと良い表現の方法はないか」などの観点をもたせ、粘り強く自分の表現を振り返る場面を設定する。

数学

- * 正答を求めることだけに終始せず、数学的に探究する場面を日常的に取り入れていく。
- * 資料の傾向をとらえ判断の理由を説明することができるようにするために、グラフの形と分布の特徴について考えさせる場面を取り入れたり、複数の代表値を求めて比較したりしながら、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実させる。
- * 数学を活用して考える力を伸ばすために、式・表・グラフと事象を照らし合わせながら、条件や数値が表す意味、変化の様子などにも目を向けて考える活動を取り入れた問題解決学習の機会を増やす。

英語

- * 聞いたことや読んだことをもとに、自分の考えを表現したり、適切に相手に応じたりする学習活動を設ける。聞くことや読むことの目的を明確にさせ、場面や状況に応じて適切に話したり書いたりできるようにする学習活動を仕組む。
- * 日常の授業で継続的にやり取りをする機会を増やす。即興性のあるやり取りの場面を設定し、必要に応じて簡単なメモを取らせるなどの支援をしながら、準備時間を設けない英語でのインタラクション(やり取り)を多く行う。また、既習の語句や表現を用いて、会話を継続または発展させるストラテジー(方略)を身につけさせるための指導を意図的に行う。
- * 「聞くこと」や「話すこと」の言語活動において、日常的な話題や身近な場面に関わる表現を扱い、語と語の連結による音変化や、語や句、文における強勢等を意識しながら聞いたり話したりさせるようにする。

4 質問紙調査の結果から

69の質問項目から、「肯定的な回答が著しく高いもの」または「全国平均と比較して、その差が大きいもの」は、次のとおりです。

※ 肯定的な回答とは、「当てはまる」または「どちらかという当てはまる」を合わせた回答。

【挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感等について】

* 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」

* 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思うか」

* 「人が困っている時は、進んで助けているか」

これらの質問については、肯定的な回答をした生徒が9割を超えている。

* 「学級みんなで話し合っ決めてことなどに協力して取り組み、嬉しかったことがあるか」

* 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」

* 「自分には、よいところがあると思うか」

これらの質問については、肯定的な回答をした生徒は、8割を超えている。

* 「人の役に立つ人間になりたいと思うか」については、肯定的な回答した生徒が8割を超えているものの、全国平均には満たない値となっている。

* 「将来の夢や目標を持っているか」については、肯定的な回答した生徒が7割を超えているが、「どちらかといえば、あてはまらない」または「あてはまらない」と答えた生徒も2割を超える。

* 「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦しているか」については、肯定的な回答をした生徒が7割を超えてはいるものの、「どちらかといえば、あてはまらない」または「あてはまらない」という回答も2割を超えている。

【学習習慣等について】

* 「読書は好きか」については、8割を超える生徒が、肯定的な回答をし、全国平均を大きく上回っている。

* 「学校の授業以外に、普段(月から金)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか(参考書や漫画等は除く)」については、「2時間以上」「1時間以上2時間未満」「30分以上1時間未満」の回答を合わせると約5割であり、全国平均を大きく上回っている。

* 「新聞を読んでいるか」については、「ほぼ毎日」「週に1~3回」「月に1~3回」と答えた生徒を合わせると5割を超え、全国平均を大きく上回ってはいる。ただ、「全く読まない」と答えた生徒も4割を超える。

* 「学校の授業以外に、普段(月から金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(学習塾等も含む)」については、「3時間以上」「2時間以上3時間未満」「1時間以上2時間未満」の回答を合わせると8割を超え、全国平均を上回っている。

* 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」について、肯定的な回答をした生徒は約6割であり、全国平均をわずかに上回ってはいるものの、「どちらかといえば、していない」または「していない」との回答が4割を超える。

【ICTを活用した学習状況について】

* 「1・2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか」について、「ほぼ毎日」または「週1回以上」を合わせた回答は2割に満たない。さらに全国平均と比べても大きく下回っている。

【授業改善に関する取組状況について】

* 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うか」について、肯定的な回答した生徒は9割を超え、全国平均を大きく上回っている。

* 「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」

* 「1・2年生の時の道徳授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思うか」

これらの質問について、約9割の生徒が肯定的な回答し、全国平均を大きく上回っている。

【教科(国語・数学・英語)に関する興味・関心等】.....

- * 「授業の内容はよく分かるか」について、各教科とも8割の生徒が肯定的な回答をし、全国平均を大きく上回っている。
- * 「国語の授業において、『目的に応じて自分の考えを話したり、書いたりする活動しているか』『自分の考えを話したり書いたりするとき、上手く伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫しているか』」について、ともに肯定的な回答をした生徒は約9割であり、全国平均を大きく上回っている。
- * 「国語の勉強は大切だと思うか」について、肯定的な回答をした生徒は約8割ではあるが、全国平均には満たない。
- * 「英語について、1・2年生の時に受けた授業では、『自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか』『英語を読んで概要や要点を捉える活動行われていたと思いますか』『スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていましたか』『原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動が行われていたと思うか』」について、肯定的な回答をした生徒は9割を超え、全国平均を大きく上回っている。
- * 「英語の勉強はもとより、授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」について、9割を超える生徒が肯定的な回答をしている。
- * 「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり、職業に就いたりしたいと思うか」について、7割を超える生徒が肯定的な回答をし、全国平均を大きく上回っている。

【今回の調査について】.....

- * 「数学の問題について、回答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、9割の生徒が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答し、全国平均を大きく上回っている。

5 質問紙調査結果から見た改善点

- * 本校生徒は規範意識、自己有用感とも高く、仲間とともに切磋琢磨しながら、落ち着いた生活をしているといえる。その一方で、将来の目標や夢について、「もっていない」または「どちらかといえばもっていない」と答える生徒が2割を超えている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」との間についても、全国平均を下回る結果となっている。このことは、目先の進路指導のみで終わらない、学ぶこと、働くこと、生きることの意義を実感させる「キャリア教育」の必要性を示唆している。今後も3年間のつながりを大切にしながら、本校ならではのキャリア教育をさらに充実させていきたい。
また、本校生徒は学習と両立しながら、部活動をはじめとする様々な活動にも積極的に取り組んでいるものの、4割を超える生徒が「計画性を意識していない」と答えている。学級活動はもとより、様々な活動の中で見通しを持つことの大切さに気付かせていくとともに実践力を鍛えていきたい。
- * 「新聞を読む頻度とテストの正答率」の正の相関関係は今年も報告されている。本校生徒は、全国平均を大きく上回ってはいるものの、昨年同様「全く読まない」と回答した生徒が4割を超えている。教科によってばらつきはあるものの、今後も「教科横断的な幅広い話題が取り上げられている新聞」を教材として積極的に活用していきたい。
- * 教育におけるICTの活用は、新時代の学びを支える方策の一つとして重要視される。だが、本校の現状では8割を超える生徒が「授業でもっとICTを活用したい」と望んでいるにも関わらず、その満足度は全国平均を大きく下回っている。今後、タブレットをはじめとするICT環境を整えると同時に、各教科におけるICT活用を推進していく必要がある。

【保護者の皆様へ】

調査結果より、本校生徒が、学校生活に対して、前向きに意欲的に生活している様子がうかがえます。今回の結果を参考にし、職員一同、今後も生徒一人ひとりが成長できる学校づくりを目指し努力する決意です。今後とも、附属中教育へのご理解とご協力をお願いいたします。